

寄せ鍋



河内長野市立千代田中学校
生徒指導だより
令和6年8月6日に向けて

以前にも右側は掲載したことがあります。

原爆投下から79回目の夏

毎年、千代田中学校では8月6日を『平和登校日』とし、全校生徒で平和について考える日になっています。

1学期に、1年生は『大阪大空襲』・2年生は『沖縄戦』・3年生は『ヒロシマ』について学習しました。みなさんは、どんな気持ちで平和学習をしましたか？

千代田中学校の修学旅行は、平和学習を軸に、『ナガサキ』や『ヒロシマ』に行っています。なぜ、『ナガサキ』と『ヒロシマ』に行くのでしょうか？

実は、千代田中学校の人権教育では、『日常の教育活動の中で、人の立場に立って考え、命を大切にする生徒の育成に努める』ことを大切にしています。



だから、『修学旅行』は、ただの『旅行』ではなく、『平和学習』のまとめの（学習旅行）として、行き先を『ナガサキ』や『ヒロシマ』にしています。

普段の学校生活でもよく『相手の気持ちを考えなさい。』と言われると思います。また、『命を大切にする』ということで『いじめ』について考える場面があると思いますが、それは全部『感受性豊かな人』や『お互いに支え合うことのできる人』に成長してほしいという思いがあるからです。

ぜひ、登校日の日だけでも『自分にとっての平和とはなんだ!?!』と考え、『心が動く1日』にしてください。

☆前回予告していた、『ヒロシマ』と『広島』の違いについてです☆
一般的な地名をあらわすときは“広島”で、平和や原爆に関連することをあらわすときは“ヒロシマ”です。日本語と同じように英語でも、Hiroshima (広島)、HIROSHIMA (ヒロシマ)と書きます。



わたしのおばあちゃん

わたし（益本）は、広島県出身で、被爆3世になります。原爆ドームのすぐそばで生まれ育ちました。夏休みといえば、『原爆ドーム』の目の前で、朝早くからラジオ体操があり、おばあちゃんとセミ取りをしながら帰ることが日課でした。また、8月6日は『登校日』で平和について考えることが当たり前でした。

しかし、今でも忘れられないことがあります。それは、小学校3年生ぐらいのときだったと思いますが、夏休みに「おじいちゃん・おばあちゃんから戦争のことを聞いてきましよう」という宿題が出たので、おばあちゃんに聞いてみました。すると、おばあちゃんは首を横に振って「戦争の話はしたくない。」と言っただけ言って口を閉ざしてしまっただけです。それからおばあちゃんが亡くなるまで、わたしはおばあちゃんに戦争の話聞くことができませんでした。

それから何十年もたち、みんなと平和学習していく上で、『ああ、おばあちゃんはどうな体験をしたから話したくなかったのかなあ…』と改めて考えるようになりました。なので、親戚のおばちゃんに、おばあちゃんのことを聞いてみました。すると、「おばあちゃんに向かい側に座っていた妹が一瞬にして消えて亡くなったんよ。」と話してくれました。「え？」と驚くわたしに続けて親戚のおばちゃんは言いました。「爆風の関係でおばあちゃん側は大丈夫だったけど、妹は飛ばされてね…」と。わたしは、言葉では表すことのできない感情で、ものすごく心が締め付けられました。

おばあちゃんがあの時亡くなっていたら、今のわたしはいない…。「生きるってなんなんじゃろ?」「生きてるって奇跡じゃん」「命があることに感謝し、命を大切にせんといけん。」と強く思うようになりました。

以前、修学旅行で被爆者の方がわたしたちに「『たった一つの^{いのち}生命だから』」のあとに、あなたならどんな言葉をいれるか考えてください。」と問われたことがあります。

みなさんならどんな言葉を入れますか？

わたしなら、

たった一つの命だから、**今を大切に生きたい。**

と入れます。



今日をきっかけに、みんなにはもっと「79年前の日本でなにがあったのか」を知ってほしい!!そして『命をとことん大切にしてほしい!!』と、強く願っています。